

『カラスの恩返し』～『後世への贈り物』～

2026 年 2 月 2 日 HP『心に咲く花会』を担当されている【『樋野動物園』管理人＝『春風のようなゴリラ』（森尚子）様】から、【大田区池上の白梅の蜜を吸うメジロと、ディズニーシーのムクドリです。鳥は無邪気で癒されます。】（画像）との心温まるメールを頂いた。大いに感動した。

今回、若き日の故郷での『カラスの恩返し』が鮮明に蘇ってきた。『カラスの恩返し』とは、【島根県出雲市鵜峠の実家の裏庭に 羽を傷ついたカラスが降り立ち、母は、そのカラスに餌を与え育てた。 傷が治り、空に旅立ったカラスが、一年後、再び現れ、裏庭の上空を旋回し、一羽を裏庭に落とし、飛び去っていった。 母に対する恩返しである。 此は、忘れ得ぬ、若き日の実話である。】と 何時も 筆者は、生徒への授業、講演会などで語る。

筆者の故郷は無医村であり、幼年期、熱を出しては 今は亡き母に背負われて、隣の村の診療所に行った体験が、脳裏に焼き付いている。まさに『母の 後世への贈り物』であり、筆者にとってはかけがえのないものである。筆者は『カラスの恩返し』の話を幼い時から 母に毎日のように聞かされて育った。

『樋野動物園』は、2019 年 10 月 13 日に開設され、現在 200 匹（人）を超える入所とのことである。驚きである。大いに感激する。【『樋野動物園の意義』は『個性と多様性』である。】&【『樋野動物園の使命・役割』は、『ただ、横にいただけでいい。必ず誰かの役に立っている。』】の学びであろう！まさに、『樋野動物園』は、【『純度の高い専門性と社会的包容力の実践の場のモデル』である。

『純度の高い専門性と社会的包容力』

- 1)『理念を持って現実に向かい、現実の中に理念』を問う人材の育成
- 2) 複眼の思考を持ち、視野狭窄にならず、教養を深め、時代を読む
『具眼の士』の種蒔き
- 3) 世の流行り廃りに一喜一憂せず、あくせくしない態度

【『表面的なhappy vs 内から湧き出るjoy』の違いの考察】の復習の日々である。

